森の働きと重要性

森には、雨水を地中に蓄え、徐々に流すことで川の水量を一定に保つ働きがあります。これを「水源涵養機能」といい、森が『緑のダム』といわれる理由です。また、木の根がしっかりと土を抱え込むため、山地の崩壊や土砂の流出も防いでいます。

そのほかにも、木材を生産したり、多様な生態系を育んだりと、さまざまな機能を持っています。そのどれもが重要な働きをしていて、私たちの生活に欠かせないものです。

これらの機能は、林業を営む人々が、植林・下草刈り・つる刈り・枝打ち・間伐・伐採を繰り返すことで維持されてきました。特に、人工的に植林された森林は、放置すると生育の悪い木々ばかりが密集し日が差し込まない森になってしまうため、間伐などの手入れが欠かせません。

しかし、現在では、日本の林業は採算のとれない仕事となり、さらには、山の所有者離れや高齢化が進み、森の手入れが行き届かず、どんどん荒れてきています。

荒れた森が増えるということは、「水源涵養機能」などの森の機能が衰えているということです。水の恩恵を受けている水源の森の危機に、どれだけの人が気づいているでしょうか。

放置された森と手入れが行き届いた森の違い

interview

森を守る人の声。

市内から塩江に来られると、皆さん「自然がきれいですね。」と口をそろえておっしゃいます。確かに、夏の青い山や、魚の泳ぐ川は美しいものです。

戦時中までは、日本の山林は薪炭林として活用してきました。人が山に入り木々を切り新しい木を育てる、そんな時代でした。

戦後、燃料が木炭から電気やガスに変わり山林は薪炭林の役目を終えました。そのまま放置するのでは忍びないと、香川の山林に合ったアカマツを植林しましたが、松くい虫により壊滅的な状態となり、その後、ヒノキを盛んに植えるようになったのです。

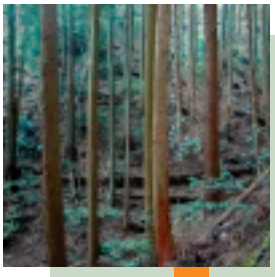
香川のヒノキ林は、他県に比べ20年は遅れています。現在もまだ手入れを必要とする森林ばかりなのですが、森林所有者は皆、年を取り、山の手入れなど不可能な高齢者ばかり。こどもたちは仕事を求め街へ出ました。儲けが少なく作業のきつい林業を継いでくれるものはいません。

一見きれいに見える広葉樹林も、放置された高い木が日陰を作り、低い木は枯れて森もそこに住む動物たちも悲鳴を上げています。

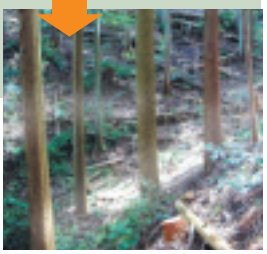
土砂崩れが起こると、山の持ち主が肩身の狭い思いをします。しかし、山からの一滴が川となり、自然からの恩恵を授かっているのだということを川下の人々も忘れてはいけないと私は思います。

人工的に植林された森は、人間がずっと手入れをし続けなければいけません。日本の「森」本来の循環サイクルを取り戻す日がくることを願って、次の世代にも受け継いでもらいたいです。無関心になられることが一番怖いことですから。

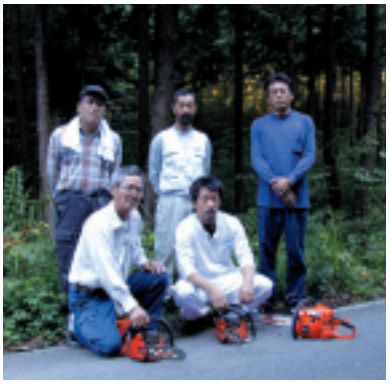
塩江町森林組合　藤澤　寛文さん



◀間伐前の森（塩江町）



▶間伐後の森。細い木々が切り取られて、日が差し込む。



▲早朝より山の中で作業は進められる。山々を守り続ける人々に感謝したい。